

岡本 祐幸（おかもと ゆうこう）

職名	教授
所属研究室	理論生物化学物理研究室（TB 研）
メール ※	okamoto{a}tb.phys.nagoya-u.ac.jp

※ {a} は@に置き換えて下さい



学歴と学位

1979年6月 米国ブラウン大学物理学科 卒業、B. S. -M. S. の学位を取得（財団法人グループ基金留学生）

1984年8月 米国コーネル大学大学院物理学専攻博士課程 修了、Ph. D. の学位を取得

職歴

1984年9月～1986年3月 米国バージニア工科大学理学部物理学科 博士研究員

1986年4月～1993年5月 奈良女子大学理学部物理学科 助手

1993年5月～1995年3月 奈良女子大学理学部物理学科 助教授

1995年4月～2005年3月 岡崎国立共同研究機構（現自然科学研究機構）分子科学研究所
理論研究系 助教授

1995年10月～2005年3月 総合研究大学院大学数物科学研究科機能分子科学専攻 助教授（併任）

2005年4月～現在 名古屋大学大学院理学研究科物質理学専攻（物理系） 教授

2007年2月～現在 名古屋大学大学院理学研究科附属構造生物学研究センター 教授（兼担）

2010年6月～現在 名古屋大学情報基盤センター大規模計算支援環境研究部門 教授（兼担）

2011年4月～現在 名古屋大学大学院工学研究科附属計算科学連携教育研究センター 教授（兼担）

受賞など

2010年11月22日 米国物理学会フェロー表彰

計算物理学部門(DCOMP)からの推薦

Citation: For his invention of novel and useful computational methodologies for probing the conformational phase space of biomolecules.

2011年10月-12月 Overseas Visiting Scholar (ミカエル学期)

英国ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジ

研究内容

研究分野：生物物理学、計算物理学、計算化学

キーワード：生体分子系の計算機シミュレーション、拡張アンサンブル法、マルチカノニカル法、焼き戻し法、レプリカ交換法

生体分子系などの多自由度複雑系ではエネルギー極小状態が無数に存在するので、計算機シミュレーションがこれらの極小状態に留まってしまい、誤った答えを出してしまうという困難があった。我々はこの困難を克服するために、拡張アンサンブル法と総称されるシミュレーション法を生体分子系に導入するとともに、より有効な拡張アンサンブル法を新規に開発してきた。これによって、様々な生命現象の発現原理を探っている。具体的には、蛋白質の立体構造予測、蛋白質の折り畳み問題、高圧力環境下の構造転移、薬剤候補分子の蛋白質への結合自由エネルギー計算、アミロイド病発現の原因であるアミロイド線維形成のシミュレーション、更には、蛋白質以外にも、核酸、脂質二重膜、オリゴ糖分子等のシミュレーションも行なっている。

[名大教員プロフィールページ \(リンク\)](#)

[研究室ホームページ \(リンク\)](#)

業績リスト

[Google Scholar \(リンク\)](#)

[ResearcherID \(リンク\)](#)